

新指定答申文化財概要（三重県）

国宝（考古資料）新指定 1件

● 三重県宝塚一号墳出土埴輪（松阪市）

【名称】 三重県宝塚一号墳出土埴輪

みえけんたからづかいちごうふんしゅつどはにわ

【種別】 国宝（考古資料）

【員数】 8点（船形埴輪1点、^{みねがたはにわ} 冪形埴輪3点、^{かこいがたはにわ} 冪形埴輪4点）

^{つげたり} 附 埴輪残欠 262点、土器・土製品 8点 計 278点

【所有者】 松阪市

【所在地】 松阪市外五曲町1 松阪市文化財センター

【年代】 古墳時代中期前葉（5世紀初め）

【大きさ】 船形埴輪 全長140cm 高さ94cm 幅36cm

宝塚1号墳は、松阪市宝塚町（たからづかちょう）・光町（ひかりちょう）にまたがる、伊勢湾を見渡せる丘陵上に位置しています。墳丘全長111mの前方後円墳で、古墳時代中期前葉の築造と推定され、隣接する2号墳とともに「宝塚古墳」として昭和7年（1932）に国指定史跡に指定されています。平成11年度（1999）から平成14年度（2002）にかけて、史跡整備のため松阪市教育委員会が発掘調査し、前方部と土橋でつながる島状の造り出しからは多種多量の埴輪が出土しました。出土品は平成18年（2006）6月に「三重県宝塚一号墳出土品」として170点、附101点が重要文化財に指定され、その後の保存修理事業によって平成23年（2011）6月に170点、附106点に員数変更されました。

今回、重要文化財に指定された埴輪のうち学術的に特に重要な船形埴輪1点、冪形埴輪3点、冪形埴輪4点が国宝となります。他の埴輪残欠262点および土器・土製品8点は国宝の附（つげたり）となります。

船形埴輪 全長140cm、高さが94cmある極めて大形の埴輪です。造形性、写実性に優れ、かつ残りの良い船形埴輪は古墳時代における大形船の具体的な姿を知る上で重要です。また船上には大刀（たち）、威杖（いじょう）、蓋（きぬがさ）をかたどった威儀具（いぎぐ）が立ち、このような首長の権威を象徴する造形や装飾は他に例がありません。

冪形埴輪・冪形埴輪 切妻造り（きりづまづくり）の冪形埴輪3点は、冪形埴輪（かこいがたはにわ）とそれぞれが組になります。1組には家のなかに水を引き入れ清めるための施設（導水施設）が、2組には家のなかに井戸（湧水施設）があります。これらは古墳時代の水に関わる祭祀を復元するうえで学術的に重要です。残る1点の冪形埴輪は、入母屋造り（いりもやづくり）で二階建てのように見える大型の豪華な建物を表現していると考えられ、そばに置かれた船形埴輪と関係がある可能性が高いものです。

これらは造形性・写実性・装飾性に優れ、古墳時代の具体的な姿をあらわすとともに、水に関わる祭祀を具体的に表現した他に例のない埴輪であり、当時の葬送儀礼や埴輪祭祀を考えるうえで極めて高い学術的価値がある点から、国宝にふさわしいと評価されました。

新指定答申文化財概要（三重県）

重要文化財（彫刻）新指定 1件

● 木造阿弥陀如来立像 快慶作・木造地藏菩薩立像 （松阪市）

- 【名称】 木造阿弥陀如来立像 快慶作・木造地藏菩薩立像
もくぞうあみだによらいりゅうぞう かいけいさく・もくぞうじぞうぼさつりゅうぞう
- 【種別】 重要文化財（彫刻）
- 【員数】 2 軀
- 【所有者】 安楽寺（あんらくじ） 松阪市安楽町
- 【所在地】 津市一身田上津部田 3060 三重県総合博物館（寄託）
- 【年代】 鎌倉時代
- 【大きさ】 木造阿弥陀如来立像 78.2cm 木造地藏菩薩立像 52.1cm

安楽寺は、櫛田川左岸の安楽町に所在する寺院です。阿弥陀如来の左足ほぞの墨書銘は「巧匠 法眼快慶（ほうげんかいけい）」と推定され、快慶が法眼位（ほうげんい）であった時期（1208年頃～1227年以前）の作例と考えられ、優れた出来栄を示しています。地藏菩薩は足ほぞに削り直しがあり、本来銘文が記されていたかは不明ですが、快慶が法眼位であった時期の作風を示しています。

阿弥陀如来と地藏菩薩は同時に制作されたと考えられ、地藏菩薩台座の修理銘から、この2軀は奈良県奈良市にあった眉間寺（みけんじ）から安楽寺に伝来したことがわかります。

重要文化財（彫刻）追加指定 1件

● 木造阿弥陀如来及脇侍坐像 附 木造観音菩薩坐像 （松阪市）

- 【名称】 木造阿弥陀如来及脇侍坐像 附 木造観音菩薩坐像
もくぞうあみだによらいおよびきょうじぞう つけたり もくぞうかんのんぼさつぎぞう
- 【種別】 重要文化財（彫刻）
- 【員数】 2 軀 附 1 軀 （3 軀のうち 1 軀が追加指定、1 軀が附追加指定）
- 【所有者】 清光寺（せいこうじ） 松阪市中町
- 【所在地】 松阪市中町
- 【年代】 平安時代
- 【大きさ】 木造阿弥陀如来坐像 87.7cm 木造勢至菩薩坐像 72.2cm 木造観音菩薩坐像 71.5cm

清光寺は松阪市市街地に所在する寺院です。本尊の木造阿弥陀如来坐像は明治45年に重要文化財（彫刻）に指定されています。本堂中央に阿弥陀如来、向かって右に蓮台（れんだい）を捧げる観音菩薩、左に棒状の持物（じもつ）を執る勢至菩薩（せいしぼさつ）を安置し、死者を迎える来迎形（らいごうぎょう）の阿弥陀三尊（あみださんぞん）を構成しています。勢至菩薩は阿弥陀如来と作風や表面仕上げが共通することから、阿弥陀如来と同じく平安時代後期の制作と考えられ、今回重要文化財に追加指定されます。観音菩薩は勢至菩薩に倣って江戸時代に補作されたと考えられ、三尊の一体として伝来し調和が図られていることから附（つけたり）指定されます。

この3軀の仏像は、明治時代に清光寺の本堂が焼失した後、明治44年に本堂が再建される際に京都からもたらされたと伝わっています。

たからづかいちごうふんしゅつどはにわ
三重県宝塚一号墳出土埴輪

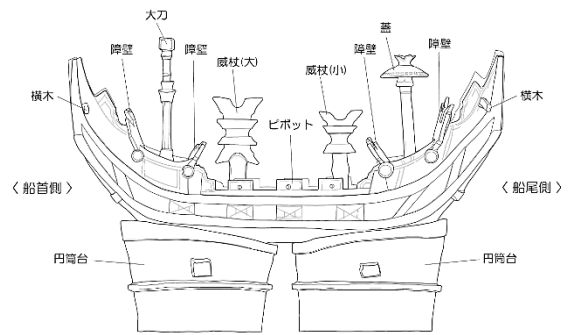
松阪市所蔵



三重県宝塚一号墳出土埴輪



船形埴輪 側面から



船形埴輪 各部位名称



船形埴輪



<参考>国指定史跡 宝塚1号墳の造り出し整備状況

たからづかいちごうふんしゅつどはにわ
三重県宝塚一号墳出土埴輪

松阪市所蔵



家形埴輪



圀形埴輪・家形埴輪



圀形埴輪・家形埴輪（導水施設） ⇒



家形埴輪（導水施設）の内部



圀形埴輪・家形埴輪（湧水施設） ⇒



家形埴輪（湧水施設）の内部

もくぞう あ み だ によらいりゆうぞう
木造阿弥陀如来立像

かいけいさく もくぞうじぞうぼさつりゆうぞう
快慶作・木造地藏菩薩立像

安楽寺所蔵



木造阿弥陀如来立像 快慶作



木造地藏菩薩立像



<参考>

木造阿弥陀如来立像 銘文

もくぞうあみだによらいおびきょうじざぞう
木造阿弥陀如来及脇侍坐像

つげたり
附

もくぞうかんのんぼさつぎぞう
木造観音菩薩坐像

清光寺所蔵



せいしほさつぎぞう
木造勢至菩薩坐像

あみだによらいざぞう
木造阿弥陀如来坐像

かんのんぼさつぎぞう
木造観音菩薩坐像



木造勢至菩薩坐像（追加指定）



木造阿弥陀如来坐像（既指定）



木造観音菩薩坐像（附指定）